

令和8年度  
事業計画書

特別養護老人ホーム 眺峰園

## 目 次

1	事業運営計画-----	P 1
2	実施施策の令和8年度行動計画-----	P 2
	(1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上-----	P 2
	(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり-----	P 5
	(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立-----	P 7
3	目標利用率-----	P11
4	固定資産物品購入計画-----	P11
5	修繕計画-----	P11
6	大規模修繕計画-----	P11

---

## 1 事業運営計画

事業の種類及び利用定員	
1	介護老人福祉施設 70名
2	短期入所生活介護 10名
3	居宅介護支援
運営方針	
1	<p>介護老人福祉施設</p> <p>(1) 施設入居者の選択と自己決定を尊重し、その権利を擁護するとともに、個人の尊厳に配慮した個別サービスを実施し、選ばれる施設を目指していく。</p> <p>(2) 地域の関係機関との連携強化に努めるとともに、関係法令や社会的ルールを遵守し、積極的な情報開示と情報提供を行い、開かれた施設を目指していく。</p> <p>(3) 職員の質の向上と専門性を高め、より質の高いサービスを提供できる施設を目指していく。</p> <p>(4) 福祉ニーズを的確に把握し、地域福祉向上のために積極的に対応していく。</p> <p>(5) 事業の持続的発展を図るため、法制度改正等の情報収集を行うとともに事業実施体制の改善を行い、安定的な財務基盤の確立を図る。</p>
2	<p>短期入所生活介護</p> <p>(1) 利用者の選択と自己決定を尊重し、その権利を擁護するとともに、個人の尊厳に配慮した個別サービスを実施し、選ばれる施設を目指していく。</p> <p>(2) 地域の関係機関との連携強化に努めるとともに、関係法令や社会的ルールを遵守し、積極的な情報開示と情報提供を行い、開かれた施設を目指していく。</p> <p>(3) 職員の質の向上と専門性を高め、より質の高いサービスを提供できる施設を目指していく。</p> <p>(4) 福祉ニーズを的確に把握し、地域福祉向上のために積極的に対応していく。</p> <p>(5) 事業の持続的発展を図るため、法制度改正等の情報収集を行うとともに事業実施体制の改善を行い、安定的な財務基盤の確立を図る。</p>
3	<p>居宅介護支援</p> <p>(1) 利用者の選択により、心身状況、その置かれている環境等に応じて、適切な支援及び協力を行う。</p> <p>(2) 利用者の選択により、心身状況、その置かれている環境等に応じて、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮する。</p> <p>(3) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者に提供するサービス等が特定の種類、又は特定のサービス事業者に不当に偏することのないよう公平中立に行う。</p> <p>(4) 関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、関係法令や社会的ルールを遵守し、積極的な情報開示と情報提供を行い、開かれた事業所を目指す。</p> <p>(5) 職員の質の向上と専門性を高め、より質の高いサービスを提供できる事業所を目指す。</p> <p>(6) 事業の持続的発展を図るため、法制度改正等の情報収集を行うとともに事業実施体制の改善を行い、安定的な財務基盤の確立を図る。</p>
職種別職員配置	
1	介護老人福祉施設・短期入所生活介護

職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
施設長	1			1
事務職員	2	1		3
栄養士	1		0.9	1.9
調理員	2	2	0.9	4.9
生活相談員	2			2
介護支援専門員	1			1
介護職員	24	16	2.8	42.8
看護職員	4		0.5	4.5
機能訓練指導員	1			1
歯科衛生士		1		1
介護助手			2.8	2.8
警備従事者			1	1
用務員			2.1	2.1
合計	38	20	11	69

## 2 居宅介護支援

職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
管理者	(1)			(1)
介護支援専門員	1	1		2
合計	1 (1)	1		2 (1)

## 県市町村等からの受託、補助事業等

- 1 介護予防支援業務（地域包括支援センター）
- 2 ユニットリーダー研修実地研修の実施委託

## 地域における公益的な取組

- 1 社会福祉法人等による利用者負担軽減制度の利用による生活困窮者の支援
- 2 川合まちづくりセンターの依頼に基づいた取組の実施
- 3 大田市介護サービス事業者協議会の公益的な取組への協力
- 4 災害時における福祉避難所の開設
- 5 大田市社会福祉法人連絡会の住民を対象とした非常時等提供可能な支援のリスト化・運用への協力

## 2 実施施策の令和8年度行動計画

## (1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上

## ア 個別ニーズに応じた専門的なケアの充実で、個々の利用者 QOL を高める。

実施施策	施設のブランド化と質の高い個別ケアの維持
取組の方向性①	理念の浸透を図り、入居者一人ひとりの意向を大切にされたケアを実践する。
行動計画	・ 園長による実践理念研修を実施する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが行っている業務が施設の実践理念と結びついているかを確認するため、『理念と実践結び付けシート』を用いて振り返りを行う。 (全職種対象)</li> </ul>
取組の方向性②	ユニットリーダー研修実地研修施設チェックシート等を用い、現状分析を行うことで、課題を洗い出し、改善に取り組む。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度ユニットリーダー研修実地研修施設更新調査における改善計画書の回答に則り、改善に向けた取組を行う。</li> <li>ユニットリーダー研修実地研修施設チェックシートやユニットケア到達目標チェックシート等を用い、年1回の定期評価を行う。</li> </ul>
取組の方向性③	他施設との差別化を図るため、研修受入れや教育施設としての機能を持たせることを視野に入れ、眺峰園独自の取組の検討を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度ユニットケアセミナー中国・四国ブロックの活動担当施設として、他のユニットリーダー研修実地研修施設と連携し、セミナー開催に向けて計画的な協議、準備を行う。</li> <li>入居者、利用者の立場に立った視点で個別ケアの理解を深めることができるよう、人材育成室と眺峰園が連携し、法人の個別ケア研修を実施する。</li> <li>眺峰園独自のユニットケア体験研修を企画、運営する。企画した研修はホームページやSNSを活用し、県内外に向け情報発信する。</li> <li>先進的なユニットケア研修実地研修施設への視察を実施し、実践知を深める機会を設ける。</li> </ul>

実 施 施 策	多職種連携による根拠に基づいた支援の提供
取組の方向性①	各専門職が中心となり、食事や介護技術、口腔衛生やフットケアについての取組を実施する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者が食事を主体的に楽しみ、満足度を高められるよう、入居者の「リクエストメニュー」の提供や目の前調理の機会を設ける。</li> <li>職員のスキル向上を図り、入居者、利用者一人ひとりに最適な排泄支援と環境を提供するため、排泄のメカニズムの理解から介護技術までを体系化した「排泄ケア研修」を実施する。</li> <li>フットケアワーカーと多職種が連携し、「足の健康」と「生活機能」に着目した取組を実施する。</li> <li>日頃から歯科専門職との連携を密にし、入居者の口腔環境の維持・改善を図る。</li> </ul>
取組の方向性②	最期までその人らしい暮らしを送ることができるよう、看取りや認知症ケアについて知識を習得し、チームで取組を進める。(ACP・認知症ケア)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人の習慣や意向を24Hシートに反映させ、尊厳を保った暮らしを送れるようサポートする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームでケアの方向性を共有し、統一した支援を提供できるよう、多職種による「ちょこっとカンファ」を実践する。</li> <li>・ 「人生の最終段階における意思決定支援の研修（厚労省委託事業）」に多職種で取り組み、本人の意思を尊重した意思決定支援のスキルを習得する。</li> <li>・ 認知症ケアの専門性を高めるため、認知症介護実践者研修および実践リーダー研修への計画的な派遣を行い、現場における指導的役割を担う人材を育成する。</li> </ul>
--	---

#### イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	事故やひやりはっとの多角的な分析強化
取組の方向性①	事故の質の分類評価の標準化を改めて行い、「防げる事故」をゼロにする意識づけを行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故対策部会において、事故の質の分類評価について研修を行う。</li> <li>・ 「ルール違反による事故をゼロに」を目標に、事故対策部会で取組を実施する。</li> </ul>
取組の方向性②	ひやりはっつとや事故後の対応策を講じた後、入居者が安心して暮らせる状態になっているか、PDCA サイクルを通じて継続的に検証・改善を行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 策定した対応策の有効性を各部署・ユニット会議で事後評価し、入居者・利用者の安全を再確認するとともに、必要に応じて改善策を講ずる。</li> </ul>

実施施策	「使える BCP」による防災・感染症対策の強化
取組の方向性①	現在の BCP に基づいた実践的な訓練により、迅速な情報収集及び一目でわかる情報整理ができるように計画を見直し更新する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BCP に基づいた実践的なシミュレーション訓練を記録で残し、災害発生時の行動課題を明確にする。</li> <li>・ 課題の改善のため、大田市危機管理課職員からの助言及び事務局と相談しながら、現在、複数点在している BCP 関連のマニュアルと関連づけ、一目でわかり、より確実に動けるように見直しを行う。</li> </ul>
取組の方向性②	見直した計画を職員が有事の際に使えるような方法で職員へ周知し、訓練により継続的に改善していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見直した BCP を職員がすぐに使えるように、ポケット版やチェックリスト化により周知し、訓練で活用して継続的に改善していく。</li> </ul>

#### ウ テクノロジーを活用した根拠のあるケアの提供で、サービスの質を高める。

実施施策	ICT 活用によるサービスの向上
取組の方向性①	新しい ICT 機器の導入と運用計画を具体的に策定し、その成果を入居者支

	援の質の向上につなげる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>全床導入された眠り SCAN の活用事例を施設全体で共有し、自ユニットへ積極的に取り入れることで、データに基づいたケアの最適化と活用の定着を図る。</li> <li>記録システム「ケアカルテ」の導入に伴い、記録の役割や記録の在り方を整理した上で、運用ルールを策定し、入居者の暮らしが分かる記録を実施する。</li> <li>排泄予測機器 D-free を使用し、入居者個々の排尿リズムを正確に把握し、根拠に基づいた適切なタイミングでの介助を実践するため、運用ルールを決定する。</li> </ul>
取組の方向性②	入居者への支援の質の向上や現場のニーズに適した ICT 機器選定を行い、その導入計画を具体的に検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場の声を反映した ICT 機器の導入を推進し、まずは試行運用を通じて、支援の質の向上と業務効率化の両立を検証する。</li> </ul>

## (2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

## ア 採用ブランディングの強化と多様な人材活用で、優秀な人材を獲得する。

実 施 策	多様な人材及び多様な働き方の推進
取組の方向性①	外国人介護人材の雇用を、中長期的な計画のもとで順次展開していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 9 年度の技能実習生の受入れに向けて、事務局と連携を図りながら準備を進める。</li> </ul>
取組の方向性②	シルバー人材やスポット勤務といった多様な働き方を推進し、人材確保と定着を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事介助や入浴介助などの特定業務について、必要な時間帯にスポット勤務やシルバー人材など多様な働き方を推進し、安定したサービス提供と職員の負担軽減を図る。</li> </ul>

実 施 策	施設の魅力発信による人材確保
取組の方向性①	自施設の強みを活かした PR 戦略を立案・実行し、雇用に繋げる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>眺峰園独自のユニットケア体験研修を企画、運営する。企画した研修はホームページや SNS を活用し、県内外に向け情報発信する。(再掲)</li> </ul>

## イ キャリア形成の仕組みを整え、職員が成長を実感できることで個々のモチベーションを高める。

実 施 策	職員の成長をサポートする仕組みづくり
取組の方向性①	職員が未来のキャリアや必要なスキルについて、主体的に考える機会を持つ。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なりたい未来の自分」を具体的に描き、必要な資格・スキルの習得や研修計画を検討するワークショップを開催する</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期チームリーダーの育成に向け、日常業務や委員会活動において各職員の強みを活かせる役割を具体化し、実践を促す。</li> </ul>
取組の方向性②	公的または民間の資格取得を応援する体制を構築し、職員の自己成長を施設全体でサポートする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なりたい未来の自分」を考えるワークショップを通じて、施設が重点的に支援する推奨資格を策定し、資格取得にかかる費用の補助制度について検討する。</li> <li>管理職による準職員・非常勤職員との面接を通じて個々の学習ニーズを汲み取り、希望に沿った外部研修へ派遣する。</li> </ul>

#### ウ 風通しの良い職場風土づくりで、健康的で働きやすい職場環境を構築する。

実施施策	顔の見える関係づくりと協力体制の構築
取組の方向性①	職種や雇用形態に関係なく、顔の見える関係づくりを推進する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>職種や雇用形態の枠を超えた「顔の見える関係づくり」を推進するため、月に一度、職員同士が自由に交流できる場として「ヨコノツナガリ コーヒーラウンジ」を開催する。</li> <li>毎月コミュニケーション目標を掲げ、施設全体で目標達成に向けて取り組む。</li> </ul>
取組の方向性②	部会や委員会を通じた交流、ユニットや部署の枠を超えた協働体制を構築する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>双方が安心して業務に取り組めるように協力ユニットとの合同会議を実施し、ユニット間の連携を強化する。</li> <li>職種の垣根を超え、多職種がユニットと連携し、ユニットの食事介助をバックアップする。</li> </ul>

実施施策	職員の心身の健康管理
取組の方向性①	職員のストレス実態を把握し、その結果に基づき、心身の健康を維持するためのストレスマネジメントを行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレス実態調査の結果を把握し、職員一人ひとりがストレスに対するスキル（コーピング）を身につけられるように研修を行い、セルフケアに活かす。</li> <li>相談しやすい関係を構築するため、管理職が積極的に職員に挨拶や労いの声をかける。また、職員がストレスを抱えたまま業務にあたることのないように年2回管理職面接を行う。</li> <li>ハラスメント（カスタマーハラスメント含む）に関する相談があった場合は、管理職及び経営企画会議などで検討し、組織として対応する。</li> </ul>
取組の方向性②	業務負担と心身のストレスを軽減するため、時間外勤務の発生要因を分析し、その結果に基づき具体的な取組を行う。

行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の経営企画会議にて時間外勤務の発生要因を分析する。分析した結果に基づき、働き方改革部会にて、タイムスタディの結果と合わせて職員の業務プロセスの見直しを行う。</li> <li>ユニット間でのお互い様勤務を進め、隣接ユニットの早番ができるように業務改善を行い、職員が考えた具体的な方法による年休取得促進や時間外勤務削減につなげる。</li> </ul>
---------	--

## エ ICT の活用で業務の生産性を高め、職員の多様な働き方を実現する。

実 施 施 策	ICT 活用による業務効率の推進
取組の方向性①	入居者への支援の質の向上や現場のニーズに適した ICT 機器選定を行い、その導入計画を具体的に検討する。(再掲)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場の声を反映した ICT 機器の導入を推進し、まずは試行運用を通じて、支援の質の向上と業務効率化の両立を検証する。(再掲)</li> </ul>
取組の方向性②	新しい ICT 機器の導入を実施する際は、具体的な運用計画の策定や導入後の効果測定を実施し、業務の生産性を高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>眠り SCAN によるリアルタイムの状態把握に基づき、個々の生活リズムに合わせた訪室を行うことで、不必要な訪室を削減し、業務生産性を高める。</li> <li>記録システム「ケアカルテ」やインカム導入により即時記録を習慣化し、業務を効率化する。</li> <li>ICT ツール「ケアコネ」の導入に伴い、職員間の申し送りや家族連絡の効率化を推進するとともに、個人情報の保護を徹底し、安全かつ円滑な情報共有体制を構築する。</li> </ul>

## (3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立

### ア 地域の関係機関との連携を深め、地域の中で果たすべき役割を明確にする。

実 施 施 策	地域ニーズの把握と地域貢献活動の推進
取組の方向性①	大田市介護サービス事業者協議会及び大田市社会福祉協議会等と連携を図り、地域ニーズの把握やニーズに基づいた地域貢献活動を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>大田市介護サービス事業者協議会及び大田市社会福祉協議会における研修や部会活動の参加、また、圏域の施設との情報交換により、地域のニーズに即した研修や情報提供を行う。</li> <li>地域包括センターと連携し、認知症サポーター養成講座の講師として職員を派遣する。</li> <li>大田市社協等へ働きかけ、小・中学校での福祉学習へ現場職員を派遣し、実技や福祉機器について学ぶ機会を提供する。</li> <li>居宅介護支援事業所が主催する介護保険説明会の場を通じて、地域住民の生の声を聞き取り、課題やニーズを把握する。</li> </ul>

取組の方向性②	施設見学会や研修会を行い、ユニットケアを手法とした個別ケアの実践施設として、大田市及び県内へアピールし、介護人材育成に貢献できるように取り組む。
行動計画	・ 眺峰園独自のユニットケア体験研修を企画、運営する。企画した研修はホームページやSNSを活用し、県内に向け情報発信する。(再掲)

実施施策	地域とのつながりの強化
取組の方向性①	川合まちづくりセンターと川合地区における災害発生時の協力体制を確立する。
行動計画	・ 清風園と合同で実施する地域防災会議において、地域のハザードマップの確認や災害発生時の協力体制についての確認及び情報共有を行う。
取組の方向性②	多目的ホールを地域に積極的に開放し、住民の交流、生涯学習、文化・健康活動の場として提供する。
行動計画	・ ボランティアの協力を得て、地域住民参加の「ちょっこしカフェ」を開催する ・ 社協及び自治会へ回覧板を通じて多目的ホールの貸し出しについて情報提供し、運用ルールを作成して交流や会合等の場としての活用を勧める。
取組の方向性③	清風園と協力し、地域の運動広場等の環境整備を行う。
行動計画	・ 清風園と合同でグランドゴルフ場周りの草刈り等を行う。

#### イ 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の維持向上
取組の方向性①	計画的に事前調査を実施する等、入退所に係る空床期間短縮への取組を継続する。
行動計画	・ 3名程度の事前調査を計画的に実施し、退所後、1週間後の入所をスムーズに行う。 ・ 入居希望調査をスムーズに進められるよう10月頃に入居申込者現況調査を実施し、入居待機者一覧表を整理する。
取組の方向性②	短期入所生活介護におけるスケジュール管理及び居宅介護支援事業所との連携によるキャンセル時の空床利用を積極的に進める。
行動計画	・ 短期利用者の急なキャンセルに対応できるよう、平時から圏域や隣接市の居宅介護支援事業所と情報交換を行う。 ・ 入居者の入院時は、空床利用を円滑に進めるため、定期的に入院中の状況を確認し、退院の見通しを把握する。 ・ 生活相談員が法人の交流体験研修に参加し、他施設における利用率向上のための具体的な施策を学び、自施設の取り組みに反映させる。

実施施策	居宅介護支援事業所の安定経営及び今後の方向性検討
取組の方向性①	指定居宅介護予防支援事業所として指定を受け、受け持ち件数を維持・向上し、経営の安定化を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>大田市において近年要支援の認定者が増加しており、令和8年4月に指定居宅介護予防支援事業所として指定を受け、利用者が要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう支援する。</li> </ul>
取組の方向性②	居宅介護支援事業所は、介護保険制度の要となる事業であり、地域の状況を把握し、今後の事業展開について検討する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の事業展開について、大田市の状況及びニーズを把握し、職員（主任介護支援専門員）確保や担当者件数等も考慮し、検討する。</li> </ul>

ウ 中長期的な視点をもった事業運営で、経営の持続性・透明性を高める。

実施施策	入居者・職員の確保と今後の事業展開
取組の方向性①	他施設との差別化を図るため、研修受入れや教育施設としての機能を持たせることを視野に入れ、眺峰園独自の取組の検討を行う。（再掲）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者、利用者の立場に立った視点で個別ケアの理解を深めることができるよう、人材育成室と連携し、法人の個別ケア研修を実施する。（再掲）</li> <li>眺峰園独自のユニットケア体験研修を企画、運営する。企画した研修はホームページやSNSを活用し、県内外に向け情報発信する。（再掲）</li> <li>先進的なユニットケア研修実地研修施設への視察を実施し、実践知を深める機会を設ける。（再掲）</li> </ul>
取組の方向性②	専門性を活かした質の高いケアによる事業展開を行い、「選ばれる施設」となるための取組を検討する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科衛生士を配置し、口腔に関する専門知識と技術を活かして入居者一人ひとりの口腔衛生管理を行い、施設全体の口腔ケアの質向上につなげる。</li> <li>管理栄養士を増員し、入居者個々の状態に応じた質の高い栄養管理を行う。また、多職種連携による栄養・口腔・機能訓練の一体的な取組を行い、入居者が自分の口から食べる楽しみの支援を充実させる。</li> <li>完全調理品の導入による「業務効率化（職員の負担軽減・時間創出）」「コスト削減」「品質の安定化」といったメリットと、「手作り感の喪失」というデメリットを多角的に評価し、自施設にとって最適な食事提供体制を検討する。</li> <li>一人ひとりの生活に寄り添う風土を施設の強みとし、入居者にとって快適に過ごせる暮らしの場、また、職員にとっても働きがいがあり選</li> </ul>

	ばれる職場づくりに継続して取り組む。
--	--------------------

<b>実 施 策</b>	施設の維持管理（大規模修繕）
<b>取組の方向性①</b>	故障やトラブルが発生しないよう設備機器の定期的な点検を実施する。また、更新が必要な設備機器については計画的に更新を行い、早急に更新の計画が必要な設備等は、事務局と現状と課題を共有し検討する。
<b>行 動 計 画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて、設備系の修繕について事務局と協議の上実施する。</li> <li>・ 自主点検を定期的に行い、建物の劣化状況を把握するとともに、必要に応じて専門業者に点検・修繕を依頼する。</li> <li>・ 5S活動を推進し支援環境を整えるとともに、施設を長く安全に使えるようにコスト意識の啓発と実践を行う。</li> <li>・ 特浴について、更新時期が近づいており、チェアインバス等の導入も含めて検討を行う。</li> </ul>

## 3 目標利用率

事業名	令和6年度実績	令和7年度見込	令和8年度目標
介護老人福祉施設	98.2%	97.3%	98.0%
短期入所生活介護	91.3%	92.7%	93.0%
居宅介護支援	33件/月	40件/月	62件/月
介護予防支援業務	4件/月	8件/月	10件/月

## 4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

項目	数量	執行見込額(税込)
家庭用冷蔵庫	1	212
スカイリフト	1	425
電動ベッド	3	954
居室空調機更新	20	2,967
カラーレーザープリンター(栄養)	1	187
特浴脱衣室据え置き型リフター更新	1	475
居室 小型電気温水器取替工事(10台)	1	1,177
デスクトップパソコン	4	616
施設サーバ	1	833

## 5 修繕計画(大規模修繕を除く。)

(単位：千円)

項目	執行見込額(税込)
業務用空調機 室外機メンテナンス ユニットリビング 7か所	1,059
業務用空調機 ガス漏れ調査(たんぼ ぼりリビング)	202
居室クロス張替え(4部屋)	581
居室天井修繕	770
浄化槽移送ポンプ	237
高圧ケーブル取替	711
エコキュート機器配管廻り修繕	762
消火ポンプ呼水槽	666

## 6 大規模修繕計画

(単位：千円)

項目	執行見込額(税込)
該当なし	